一般社団法人 医療介護経営研究会(C-SR)
【C－SR広島県会員】社会保険労務士法人オーク(担当:佐藤)
〒737-0143 呉市広白石2－6－37
TEL(0823)74-9606 FAX(0823)74-9609

C－SR顧問レポート
2017年9月号 （第58号）

今月の担当
・介護・福祉系法律事務所
「おかげさま」 代表
・C-SR（社）法律 顧問
外岡 潤 氏

C－SRの皆様、こんにちは。介護弁護士の外岡です。今週3泊でベトナムに行ってきました。今年の11月から、いよいよ介護の領域でも外国人技能実習制度が始まりますが、ちょうどベトナム人実習生の受け入れを行う会社の顧問先となったため、現地を視察してきました。
現地の老人ホームで手品ショーを披露したり(右写真)、日本語学校で簡単な盆踊りを教えたりと、大変充実していました。外国人労働者のことは何も知らなかったので、今回自分の見聞きしたことや理解をレポートにまとめてみました。一部、私見や言葉足らずな点もあるかもしれませんがご容赦ください。

ざっくり理解 受け入れ制度

外国人が日本で働くルートには、大別して以下の三種類があります。

1. 留学生制度
国に制限はなく、誰でも日本に行ける。留学生として入国し、日本の学校に通いながら介護福祉士(介福)の取得を目指す。取得後は更新すれば何年でも居られるが、留学中の学費負担、バイトをしながらの生活はきつく、脱落者も多い。一人前になるまで時間がかかるのがネック。
2. EPA(Economic Partnership Agreement経済連携協定の略)
フィリピン、インドネシア、ベトナムが対象。現地の介護・看護学校卒であることが要件。片言程度の日本語力で入国し、4年間施設で働くが介福の試験に落ちると強制帰国。そのハードルが高すぎると指摘されている。
3. 技能実習制度
中国、タイ、ベトナムなど15か国が対象。現地である程度介護について教育を受けていることが要件。元々10年ほど前から、建設や製造業で始まった(介護の制度と区別して「一般」という)。入国の時点で、EPAより高い日本語能力が求められる。原則3年しか滞在できない点がネック。ただし最長5年に延ばせる。

なぜ3つもあるのか

要するに、留学とEPAという既存の方法では時間がかかりあまり広まらなかったので、介護需要のピーク(いわゆる2025年問題)に対処するため「助っ人」を求めたのだと理解しました。
まず自国で日本語を勉強してきてもらい、即戦力として期間限定で日本の施設で働いてもらおうということですね。帰国後は技術も移転されるため一石二鳥です。

一般社団法人 医療介護経営研究会(C-SR)

【C－SR広島県会員】
社会保険労務士法人オーク（担当：佐藤）
〒737-0143 呉市広白石2－6－37
TEL（0823）74-9606 FAX（0823）74-9609

C－SR顧問レポート
2017年 9月号 （第58号）

ベトナム基礎知識

ベトナムには介護保険制度はおろか、公的な医療保険もありません。日本に実習生として来るベトナム人は、母国の看護師卒が多いそうです。視察した施設でも、「自立」か「重度」かの区分しかなく、基本は多床室でした。生活リハビリの観念もなく、正に黎明期であるといえるでしょう。日本では介護度が7つもあると知ったら驚くでしょうね。人口は9000万人超。高齢化率は11%だが、2049年には26%に到達する予測。今は若い国だが、高齢化のスピードは極めて速い。日本のベビーブーム・団塊世代の現象と全く同じことが数十年後に起きるのです。日本でピークを超えた後は、ベトナムで介護人材不足になります。

実習生が日本で働ける事業形態

施設、デイはOKですが、訪問はできません。大規模な特養、有料等がターゲットになりそうです。
意外だったのが、福祉（障害）施設もOKとのこと。サ高住は訪問と同様とみなされNGだそうです。
興味深かったのが、「グループホームもありだが、元々少人数制なので利用は少ないだろう。外国人を一人で送ると不安や淋しさから脱落してしまうので、必ず同郷から2、3名まとめて送るようにしてる。」との話。なるほど、確かに。小規模の施設には利用が難しい制度なのかもしれません。

先行投資？様子見？

もし顧問先等から「技能実習生どう思う？」と聞かれたらどう答えるべきでしょうか。普通に考えれば、やはり未知の世界なので、「最初はトラブルも続出し、制度も不安定。どうなるか分からないから様子見をした方がいいのでは」という無難なアドバイスになりがち。しかし、本当に人材難を何とかしたいのであれば、やはり先駆けてチャレンジすべきと思います。ともかく一度現地を見られるといいでしょう。
今回一番驚いたことは、実は「ベトナムの若い介護人材はドイツや台湾にも行っている」という事実でした。ワールドワイドの熾烈な奪い合いだったのです。考えてみれば少子高齢化による人材難は全世界で共通の悩み。のんきな自分は、何故かベトナム人は「日本一択」と思い込んでいました。しかし実態は全く違った。何だか裏切られた（？）気分でした。ドイツは留学制度しかないが、バイトをすれば入国1年目から月30万近く稼げる。学費も無料。台湾は月収14万円程度でやや日本より劣るが、受け入れ制度のハードルが低く、近い。インドネシアやフィリピンは、母国語が英語で、現地の看護師資格がアメリカでそのまま通用する。そうなると日本を飛び越え移民大国のアメリカに行ってしまうとのこと。実習候補生はとにかく手っ取り早く稼ぎたいのです。「日本の給与が追い抜かれるのも時間の問題ですね。逆になぜ日本に来るのかが分からなくなってきました。」と絶望して言うと、「ドイツよりは近いから。」という答えが。そうか単に地理的にドイツより近いから日本に来てくれるんだ。ベトナム人の間でもドラえもんやワンピース等のアニメは人気だけど、ソフト（文化）パワーだけで来てもらえると思うのは甘かった。2035年以降、この長寿大国はどうなってしまうのだろう。生産性が低下しお金が無くなれば世界からも見放されるのは当然かもしれないけれど、だからこそ今のうちに真剣に、国を存続させる道を考え実行しなければならないのだ。そのような次第なので、少しでも興味のある方は一度現地に旅行されると良いと思います。よくも悪くも危機感を覚えられることでしょう。一方で、知らないことによる漠然とした不安は消えます。
ご連絡頂ければ、ベトナム現地の人が暮らすホームと学校を見学できるルートをご紹介します。

このレポートに掲載の文章等の無断転載を禁じます（C-SRの会員を除く）